

持続的な成長を見据えて

新しい「やまがた」の創造

変化に対応した挑戦が新たな成長につながる。地域での取り組みを紹介する。

挑戦する企業群



薄型シートを手にする田中社長

フューチャーインク
プリンテッドエレ事業化へ
山形大学ベンチャー研究契約による連携体制のフューチャーインクを結んだ。田中社長は「山形県米沢市」。山形「プリンテッドエレ」大の時任静士教授らが2016年4月に設立。印刷プロセスでフィルムに電子回路を形成するプリンテッドエレクトロニクス技術の応用開発を進めてきた。現在は「学」が生み出した成果について事業化へのフェーズを迎えている。



山形県鶴岡市の本社工場

ドリムズファーム
ご飯パック加工増産体制
稲作からご飯パック加工まで一気通貫による生産体制を確立するドリムズファーム(山形県鶴岡市)。農業法人設立は1991年。2018年から同社のかじ取りを担う東海林秀宣社長は「6次産業化のフロントランナーとしてやってきている」と地域からの成長を意欲する。



蔵王ペンション村にあるペンションスuis

ペンションスuis
山形蔵王でおもてなし
山形県上山市の蔵王ペンション村にある「ペンションスuis」を事業承継したオーナーシェフの福留氏は「今後は、10年ほど前から同ペンションに通っていた。数年前にオーナーが廃業を検討していたことを知り、18年から蔵王に移住。約1年かけて事業承継の準備を進めた。京都のホテルの初代料理長もできつつある。蔵王はスキー客などに人気が高いが、四季を通して豊かな自然に触れることができる。今春からは地元の商品などとの連携も探りペンションの知名度を高めていく考えだ。現在、直接の予約(023・679・2129)で1000円値引きのサービスも設けている。



第4次山形県総合発展計画の答申を受ける吉村知事(左)と県庁で開かれた山形県総合政策審議会(2月)のメンバー

山形県は、中期的な県民生活の向上を掲げた「第4次山形県総合発展計画」(計画期間・20年)を19年度内に策定する。度からおおむね10年間は、第4次山形県総合発展「一人材」「イノベーション」(国内外の活力)を推進力とした県づくりを基本となる考えだ。20年2月に県庁で開かれた県総合政策審議会と同計画が吉村美栄子知事に答申

少子高齢化に伴う人口減少の動きが地域で加速している。新たな成長には若者が地域に根ざし、産業の持続的な発展が欠かせない。山形県は2020年度から次期産業振興ビジョンを始動する。「新時代」に対応した県産業全体の競争力強化に向けて、産学官金の連携が試される。地域経済を支える多様な活動が期待されている。

産学官金連携、産業活力を創出



日本政策金融公庫 山形支店長 内田 裕彦氏

成長分野を見据えた産業振興への転換を目指す山形県。産業の競争力強化に向けて果敢な挑戦が期待されている。政策金融機関として、地域の連携を支援する日本政策金融公庫は、県内の景況は、「電子機器関連や縫製など従来技術の新たな展開」が期待されている。山形県は、産業の競争力強化に向けた果敢な挑戦が期待されている。政策金融機関として、地域の連携を支援する日本政策金融公庫は、県内の景況は、「電子機器関連や縫製など従来技術の新たな展開」が期待されている。

変化を恐れず 新たな芽吹きの時
「山形の企業は変化を恐れずに進んでいくことが肝心だ」と思う。日本公庫も連携を支える役割をこれからも担っていききたい。新たな成長へ、地域の動きをどう見ているか。山形の企業は変化を恐れずに進んでいくことが肝心だ」と思う。日本公庫も連携を支える役割をこれからも担っていききたい。新たな成長へ、地域の動きをどう見ているか。

5カ年、19年度末で終了する現行ビジョンも5カ年の計画期間で、その間にグローバル化進展などで地域経済を取り巻く環境が大きく変化した。次期ビジョンは産学官金の連携による新たな成長を創出する。主要な課題は「若者の定着・回帰と多様な人材の確保」「県内企業の生産性・収益性の向上」「国内外の新たな市場の獲得」など。こうした課題を踏まえつつ、基本目標をCHALLENGE to CHANGE to HANCE「新時代を担う本県の多様な「チカラ」を結集してイノベーションを加速し、国内外の変化や新たなビジネスチャンスに対応した高付加価値産業の確立をめざす」と打ち出した。対応の方向となる柱は①新時代を担う人材の確保と新規創業の促進②新時代を支える企業収益と県民所得の向上③新時代に対応した本県産業の競争力強化④の三つ。主要目標として、製造業付加価値額では1兆4000億円、労働生産性(製造業従事者1人あたり付加価値額)1400万円、学官金ネットワークによる既存産業の高度化やスタートアップ(創業)の促進、事業承継の促進に一段の進化が必要になっている。

山形県産業特集

ターナーテーブル式高圧CNC洗浄機 <http://www.kan-mf.co.jp>

KR-2

- ターナーテーブルを標準搭載。洗浄中にワーク脱着が可能となり、作業効率化やサイクルタイム短縮が図れます。
- ノズルは3本まで搭載可能。直噴ノズル、回転ノズル、大流量ノズルなど様々な洗浄パターンに対応可能。最大洗浄圧力50MPaまで出力できます(オプション対応)。
- 4分割割出、NC制御割出(オプション)などの反転治具との組み合わせにより、6面の狙い洗浄が可能です。
- ガントリー/多関節ロボットによるワーク脱着など、自動化ラインにも対応しております。

●バリ取り例

洗浄前 洗浄後

直噴洗浄ノズル 回転洗浄ノズル 大流量洗浄ノズル

KAN MANUFACTORY 株式会社 管製作所
本社・工場 〒994-0054 山形県天童市荒谷堂ノ前1000番28 TEL 023-655-6100(代) FAX 023-655-6101

なぐ。支える。 事業を、地域を。

日本公庫は、お客さまの夢の実現をお手伝いします。

JFC 日本政策金融公庫 山形支店

国民生活事業 023-642-1331
農林水産事業 023-625-6135
中小企業事業 023-641-7941